

Murakami-ke Family Period1959 Shimane Pref. Yoshiga Town

当家には既存庭園の石があったが、更に村上家の山中から多くの石を採取し、重森の全ての技術を総動員した石組みがある。しかし、自分で探した石ではないので苦慮しながら石組をした。一方、鶴島だけはその鬱憤を晴らすごとく、彫刻と云っても良い斬新な島を創作した。また、露地はこの地の水を利用した曲水の沿作り、画期的だ。建築内の部屋という部屋の襖は総て重森の造形で埋め尽くされた。

マティスへの傾倒

重森は大正12年発刊の『文化大学院 現代文化思潮講義録』第一回中にアンリー・マチス(1862～現存)を以下のように述べている。「形の単純化、それが後期印象派の一面の芸術的心理であるとすれば、この単純化が最も徹底したのが彼マチスの芸術であらう。彼の芸術に於いては、この形の単純化が対象のリズムを表現することに堪なからぬ効果を持つてゐる。」



入り組んだ巨石の亀島と護岸石とは対照的に、鶴島は大胆な抽象造形で現代彫刻のようだ。



左側が抽象造形の鶴島、右側が亀島で、中央に蓬莱島



左側の造形は重森が秘術を尽くして組んだ亀島で、奥にある白い彫刻状の造形が鶴島、その右側が蓬莱山



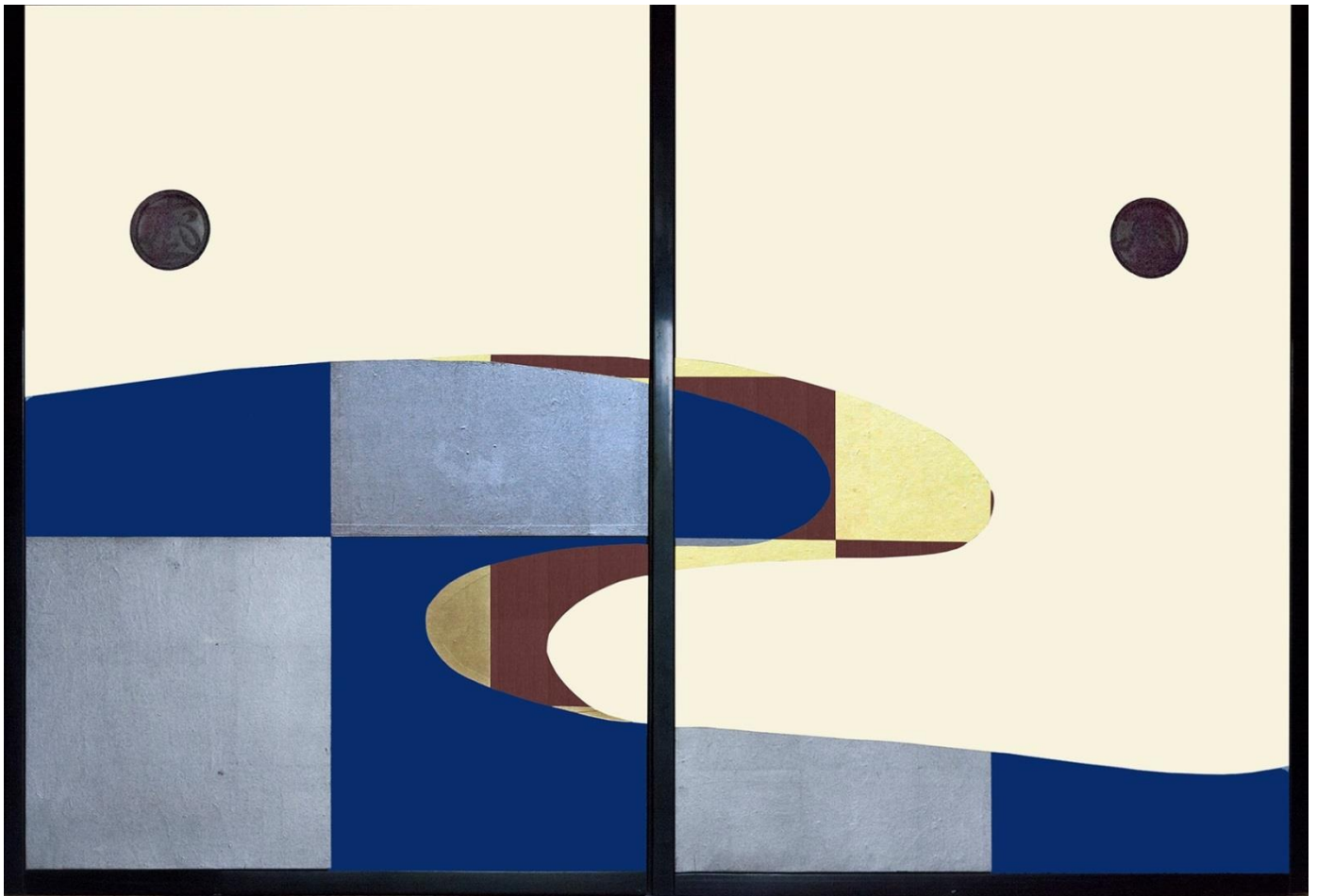
門から玄関へのアプローチ



玄関の切石模様



曲水をテーマとした露地(裏庭)



流水模様の襖絵



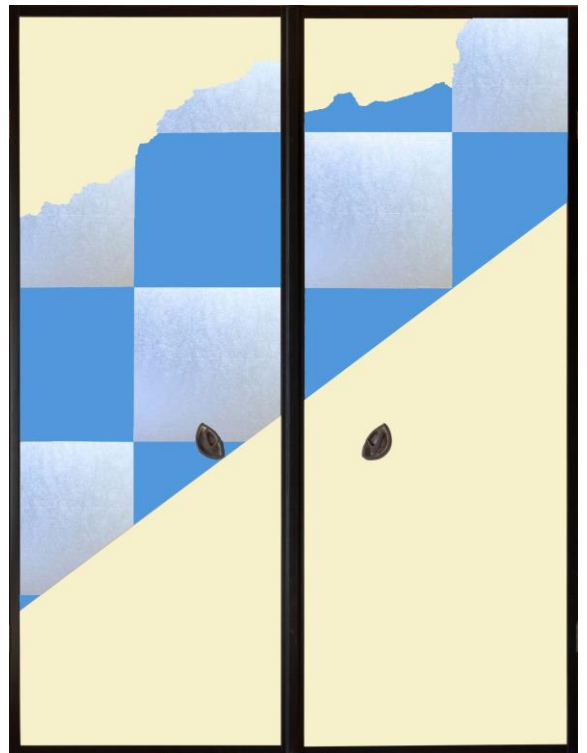
各部屋にはそれに対応した美しい造形が覇を競っている。それにもまして驚くべきことは、どの部屋の襖も変色、破損が全くないのである。家人が如何にこの造形を大切にしてきたのかよく理解できる。マチス・カンデンスキー・モンドリアンなどのヨーロッパ抽象主義の影響が濃厚だ。



格子模様(杉戸下部)



格子模様(襖下部)



ちぎり絵



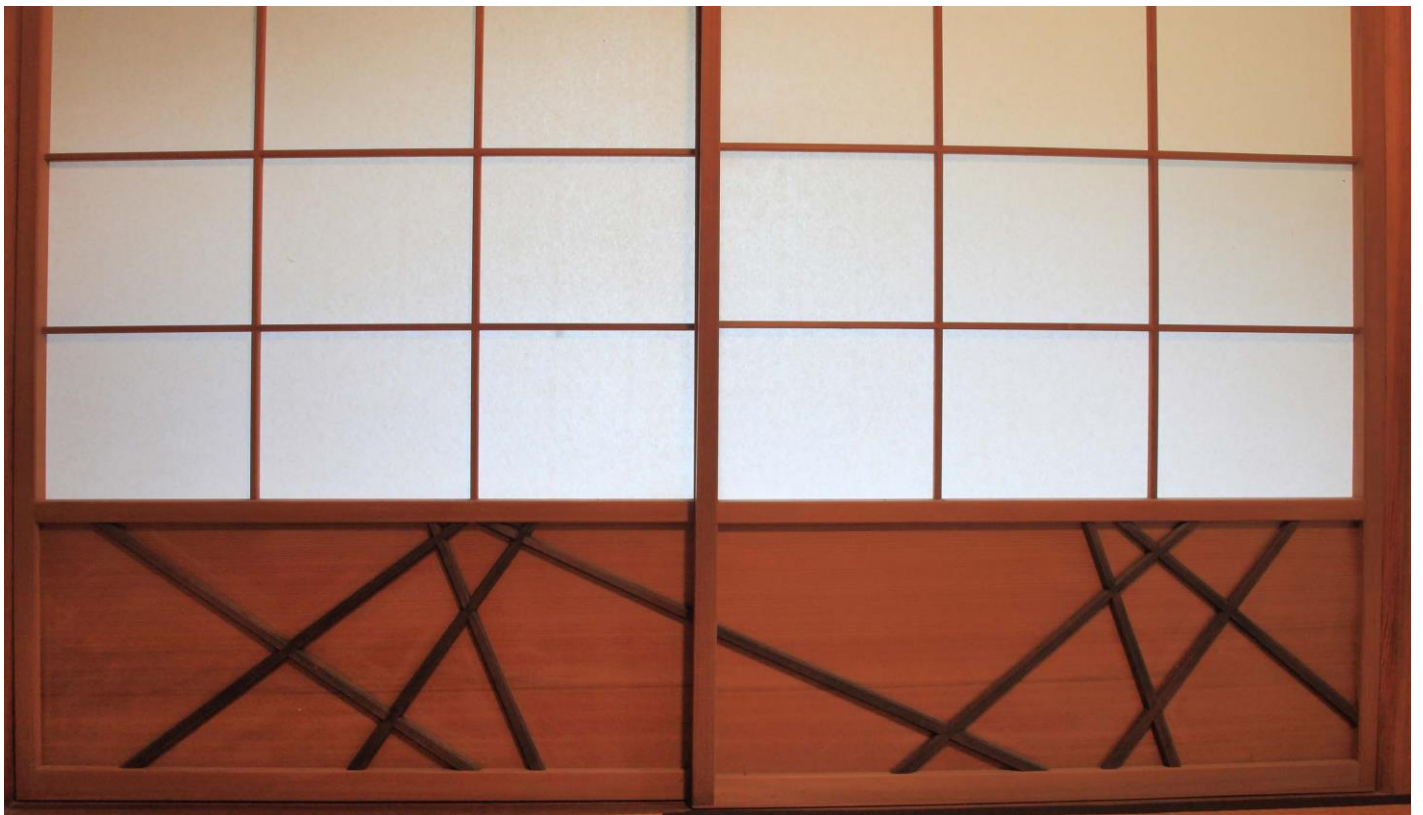
美しい書院



杉戸と円窓の囲まれた贅沢な間



附け書院



障子の腰には網干模様が



表庭の絵画



裏庭の絵画